

1.目的

自分自身が、メールの管理や必要な情報をまとめるのが苦手である。

そのため、多くのことを後回しにして、情報の管理ができず自分が苦勞をするという経験が多くあった。そこで本研究では、LINE や Gmail を操作することができる LINE Bot(以下 bot と略称)を作成し、LINE の Slack 化を行った。

Slack 化を行った理由は、Slack は有料な機能があり小数のグループには導入が難しくなっているからである。その有料な機能を、多くの人が使っている無料のコミュニケーションツールである LINE を用いて、簡易的なものを作ること、多くの人に簡単に使ってほしいと思ったからである。

2.bot 概要

以下が bot の概要である。

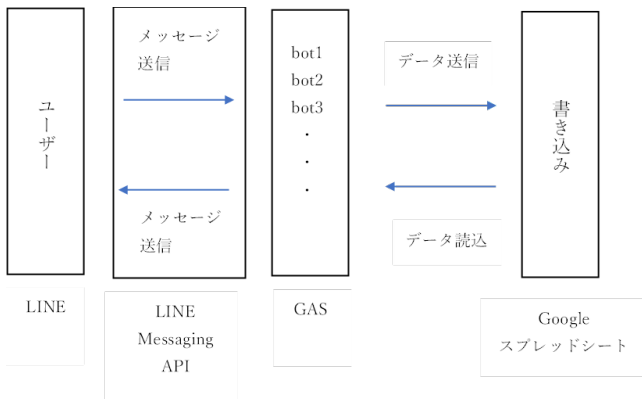


図 1 bot の概要

図 1 のように、LINE 上でユーザーがメッセージを送信することで、LINE Messaging API で内容を GAS(正式名称:Google Apps Script)に送る。その後 GAS で送られてきたメッセージが bot を動かすものなのかを判別する。その後、送られてきたメッセージを Google スプレッドシートに書き込む。その後、すでに動かした形跡や、すでに保存されたデータがあれば GAS に読み込ませる。そして、GAS で bot を動かし、データを処理し、LINE Messaging

API でメッセージを送信する。

3.機能説明

機能には大きく分けて 2 つあり、個人用とグループ用がある。個人用では、受信したメールの内容の取得と、メールの削除の機能がついている。

グループ用では、画像の保存、ユーザー登録、出欠席の登録、予定の登録、メールに使われる情報の登録 (メールアドレス、件名、送信先の会社名、送信先の社員名、本文)、メールの送信、スケジュール確認、の機能がついている。

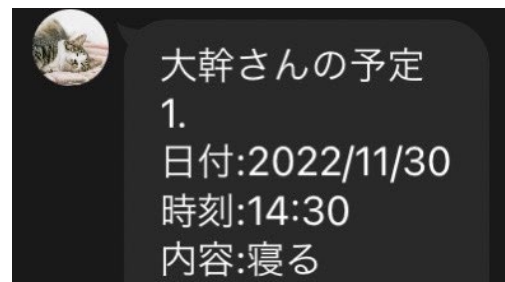


図 2 確認の実行画面

一例として、「確認」というコマンドメッセージを送ると、図 2 のように予定の内容を LINE 上で確認できる

4.感想

今回は、研究に入るまで触ってみななかった GAS を使って作ってみたいかった bot を作ってみた。簡単だとは思っていなかったが、ほかのエディターと違い、エラーコードがでなく、対処に時間がかかるなど大変な部分が多くあった。実際作っている途中で、機能がすべて停止したり、思った挙動をせずその修復に数週間かかったりしたこともあった。ただ、初めは苦戦していても、最後の方にはすんなりとコードを書くことができた。今回は GAS と LINE を連携させたが、それ以外にも Twitter や Discord 等色々なものと連携させることができる。今後も、GAS を活用して色々なものを簡略化したいと考えている。